

一般社団法人 BRIDGE KUMAMOTO
〒860-0004 熊本市中央区新町 2-2-23
Tel 096 273 6425 / info@bridgekumamoto.com

bridgekumamoto.com



Bridge[®]

KUMAMOTO

Book

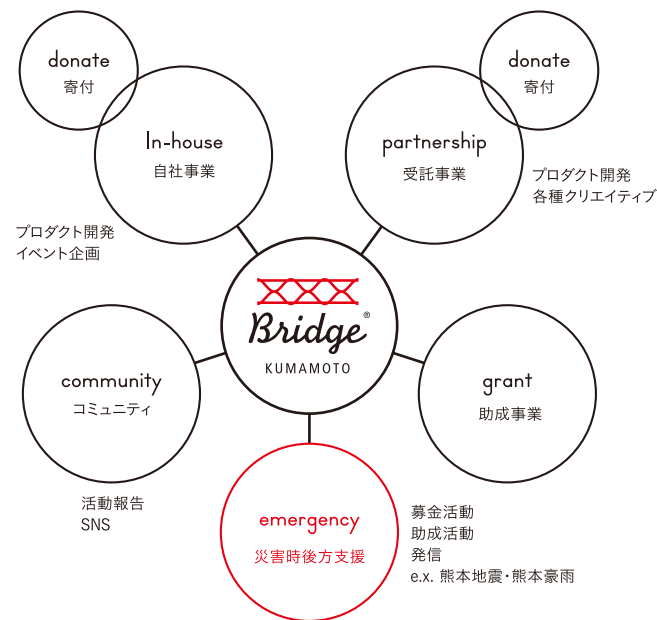
創造力は、奪えない。

私たちは、熊本地震の復興支援団体として2016年に設立しました。
災害支援にとどまらず、防災・環境問題・地域おこし・障がい福祉・若者支援など
さまざまな社会課題にクリエイティブで挑んでいます。


KUMAMOTO



Your Social Design Partner.



クリエイティブな一般社団法人

私たちは商品企画・イベント・ウェブデザイン・映像制作など、あらゆるクリエイティブ領域を専門としています。社会課題とクリエイターの架け橋をめざしています。

稼ぐ一般社団法人

私たちは活動資金を、寄付金や補助金や助成金に頼らない自立した団体をめざしています。

寄付する一般社団法人

私たちは何かと寄付をします。事業収益から寄付することもあれば、集めた寄付金を分配再寄付したり、企業の寄付をどのように使うか寄付設計を行うこともあります。寄付先は、被災地域で活動していたり、社会課題に挑んでいる、顔の見える小さな団体です。



BLUE SEED BAG[®]

売上の一部のみならず、製作にまつわるお金も被災地域へ還元される仕組みが全国展開。

熊本地震で被災した家屋を覆ったブルーシート。見渡す限りの青、この景色を「復興の種」としてポジティブにできないか。とブルーシードバッグは生まれました。

被災地域などで使用され廃棄予定となったブルーシートを回収し洗浄。被災地域の工場や熊本県内の就労継続支援事業所で縫製したバッグです。収益の一部は被災地域で活動する団体に寄付するといった仕組みが評価され、グッドデザイン賞を受賞しました。また、豪雨・台風の被災地域である岡山県や千葉県にも取り組みが広がっています。



REMAKE

ゴミの利活用



RETURN

売り上げを被災地に還元



REMIND

災害を忘れない



BLUE SEED PROJECT

売上から寄付した総額 (2017.7~2021.7現在)

¥6,272,150

販売数

約3,700個

回収したブルーシート量

約42,000㎡~

ブルーシート洗浄してくれた仲間

のべ900人~

日本の被災地と連携先

6地域×13 連携先



SDGsはじめての一歩として、
多くの企業や自治体に導入していただきました。



これまでのコラボ実績(一部)



BLUE SEED PROJECT

プロダクト製造までの循環



1 復旧に欠かせない
ブルーシートは災害ごみ
災害の多い日本で大活躍するブルーシートは、ほとんどが災害ごみとなり処分されますが、その行く末を知りません。



2 できる限り回収し
地域の人々と洗浄を
ブルーシートは回収し、地域の学校や企業と連携して洗浄します。世界中から集まったシートがまた生まれ変わります。



3 クリエイターが
プロダクトデザイン
クリエイティブの力で社会課題が解決できると信じるクリエイターがあつまり、デザインにおこしていきます。

メディア掲載実績		
【新聞】	2020年7月19日：読売新聞	2016年10月26日：BIGLOBE ニュース
2016年11月1日：朝日新聞	【テレビ】	2016年11月1日：WWD Japan
2016年11月8日：熊本日日新聞	2016年11月8日：RKK「ウェルカム」	2017年10月19日：TABI LABO
2016年11月28日：産経新聞	2016年11月8日：KAB「くまパワ！」	2018年1月3日：bouncy
2017年2月22日：読売新聞	2017年3月11日：NHK「経済フロントライン」	2018年3月1日：事業構想オンライン
2017年4月26日：読売新聞	2017年12月8日：TBS「Earth Lab」	2018年3月8日：JAGAT 研究レポート
2017年6月17日：西日本新聞	【雑誌】	2018年3月9日：六本木未来会議
2017年12月9日：日本経済新聞	2019年2月1日：自遊人	2018年4月5日：Weare
2017年12月15日：産経新聞	2019年8月5日：ソトコト	2018年4月5日：twit fukuoka
2018年1月1日：読売新聞	【ネットニュース】	2019年11月5日：design of the day
2018年2月21日：熊本日日新聞	2016年10月26日：グノシー	ほか
2019年3月7日：読売新聞	2016年10月26日：nifty ニュース	



4 プロダクトはイベントや
ポップアップで販売
完成したプロダクトはイベントで出店したり、オンラインでの販売へ。手に取ってもらえることで災害とゴミの課題どちらも知るきっかけに。



5 売上の一部は
被災地域に還元
プロダクトの売上は、復興支援の加速とゴミを減らすことができたお礼を込めて、被災地域に寄付をしています。



6 デザインと仕組みは
次の被災地域へ
災害があるたびに生まれる災害ごみを、みんなの力で普段から持ち歩けるプロダクトに変え、全国の防災意識を高めます。

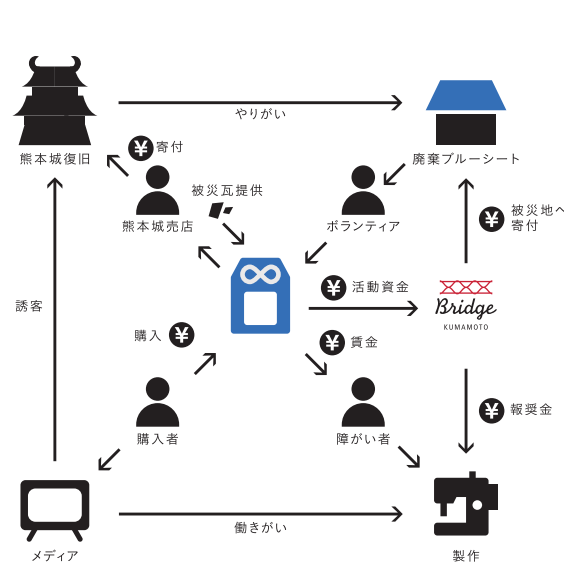


熊本城瓦御守®

廃棄ブルーシートに熊本城の被災瓦を封入した御守が全国的に人気に。

家屋を守ってきた廃棄予定のブルーシートを使い、地震で被災した熊本城の二度と落ちない「後來不落」の瓦のかけらがに入った、おなじものがひとつもない記念品です。売上の一部は熊本城災害復旧支援金に寄付されます。熊本城売店限定での販売ですが、メディア掲載は10回以上。販売開始から半年で累計5,000個以上を売り上げ、多くの方に手にとっていただけるお土産となりました。

BRIDGE KUMAMOTO BOOK



熊本城瓦御守®

見た目だけじゃない「ソーシャル」デザイン
だから社会にも、誰かにも、取り組む企業にも
“グッドな”ものづくりをしています。

熊本城瓦御守の製作は、熊本県内の就労継続支援事業所に依頼。切断、縫製、瓦の封入、包装などといった一連の業務を1人ひとりの就労者の方が手作業で行っています。感染症拡大の影響で、減収を余儀なくされた事業所にも貢献するアイテムです。

環境問題、障がい福祉、復興支援、教育。「もの」だけでなく「ものづくりのプロセス」にもさまざまな課題をかけ合わせ、より多くの社会問題の解決に貢献することにこだわっています。社会をよりよくするデザインにこだわることは、ニュースバリューにも繋がる。企業や団体の広報効果も生む全方よしのアイテムづくりを行っています。

熊本城瓦御守のメディア掲載実績は全国ネットのテレビ番組を含めて10回以上となりました。

メディア掲載実績

- 【新聞】
 2021年1月26日：読売新聞
 2021年1月30日：熊本日日新聞
 2021年4月25日：朝日中高生新聞
 【テレビ】
 2020年11月5日：RKK「夕方LIVE ゲツキン！」
 2020年12月2日：KKT「てれびタ」
 2020年12月10日：日本テレビ「news zero」
 2021年1月20日：NHK「クマロク」
 2021年4月28日：NHK「はっけんTV」
 2021年5月1日：日本テレビ「ズームイン！！サタデー」
 【ネットニュース】
 2021年4月14日：タウンネット
 2021年4月14日：しらべえ
 2021年4月14日：ねとらぼ
 2021年4月24日：まいどなNews





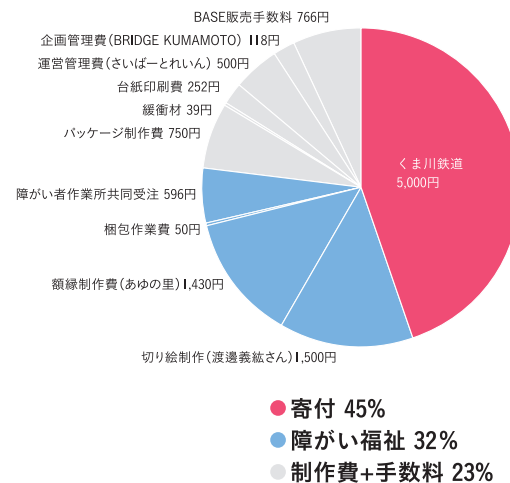
田園シンフォニーをもう一度

令和2年7月豪雨で被災した「くま川鉄道」の 浸水きっぷをアップサイクルしたアートアイテム

令和2年7月豪雨で被災したくま川鉄道。浸水により、廃棄せざるを得なくなった記念きっぷをお預かりし、「田園シンフォニー」と呼ばれる車両が戻ってくる日に想いを寄せて商品を開発しました。

100セット限定で予約完売。売上の45%の50万円をくま川鉄道に寄付しました。切り絵は、熊本県内在住の渡邊義弘さんに依頼。額縁は熊本県甲佐町の「障がい者支援センターあゆの里」の就労者によって一つひとつ制作されています。販売価格は税込11,000円と決して安くはない価格ではありますが、このアイテムに製作・販売によって、さまざまな困難や社会課題が解決に近づくようにという「ソーシャルデザイン」の観点を持って設計しています。

販売価格11,000円(税込)内訳



Partnership 受託事業

デザインを武器に、企業や団体による ソーシャルグッドを伴走支援。

SDGs(持続可能な開発目標)の注目や、ESG投資の広がりも相まって、企業は、社会的責任への配慮や持続可能な経営への取り組みが求められています。

「社会課題に取り組みたいが、どうしたらいいかわからない」そのような企業・団体に対して、クリエイティブの力を活かして、意匠・見た目のデザインだけでなく、プロダクトを通じて社会や地域のあり方、仕組みをデザインする「ソーシャルデザイン」の手法を用いた製品開発を行っています。社会によいだけでなく、担い手となる企業や団体にも還元される「全方よし」のデザインを心がけています。

株式会社ニチリウ永瀬 さま

西日本最大の園芸・農業専門商社である株式会社ニチリウ永瀬さまの「モノが無くならないガーデニングトートバッグ」と「結ばなくていいガーデニングエプロン」の企画・プロダクトデザインをBRIDGE KUMAMOTOにて行いました。自社の強みである園芸アイテムを切り口に、誰もが心身ともに健康な暮らしができる社会により貢献したい。というニチリウ永瀬さまの想いを形にすべく、当事者や専門家のご意見を踏まえながら、当事者でなくても欲しくなるデザインに仕上げました。ソーシャルデザインという観点から製作は障がい者福祉施設「光あけぼの園」のはんぶ工場「結」にて、1点ずつ手作りしています。



福岡市の認知症フレンドリーシティの記者発表で福岡市長がアイテムを紹介。





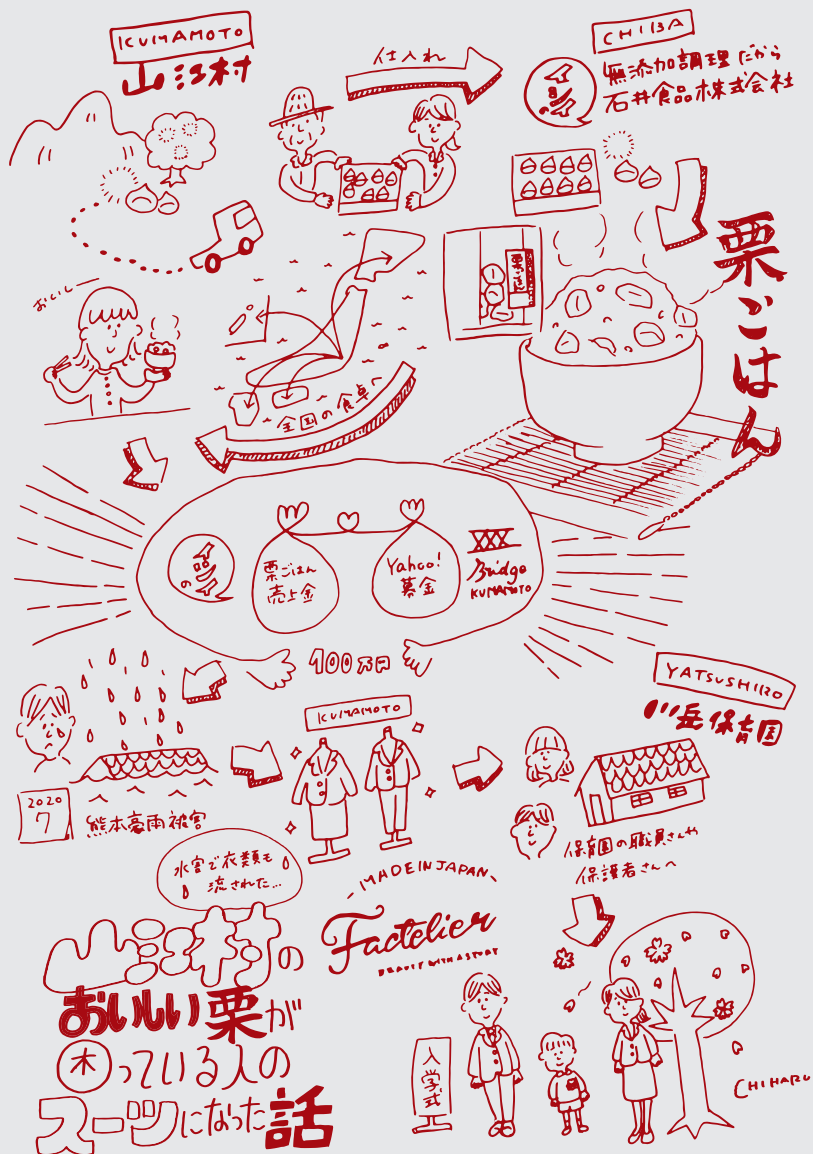
Partnership 受託デザイン事業

地方の一般社団法人なのに
大企業のウェブデザインや
グラフィックデザインも手掛けています。

「クリエイティブで社会課題を解決する」を掲げるBRIDGE KUMAMOTOの理事は、デザイナーやカメラマンなど、ほとんどがクリエイターで構成されています。グッドデザイン賞やニューヨークADCも受賞したデザイナーのクリエイティブでみなさまの想いやお客さまのニーズを表現します。



YAMAE MARRON PROJECT ISHII FOOD + BRIDGE KUMAMOTO



Partnership 寄付金活用

熊本県山江村のおいしい栗が
困っているひとのスーツになった話

石井食品 さま

イシイのミートボールでおなじみ石井食品株式会社。「イシイの本気は裏に出る」と、素材にこだわり、無添加調理にも取り組み続けて20年以上になる食品メーカーです。

熊本の食材を使用した石井食品の栗ごはん「今年採れたやまえ村の栗」や、野菜を食べる玄米おかゆ「potayu」など売上の一部である約70万円を、BRIDGE KUMAMOTOにご寄付いただきました。令和2年7月豪雨で被災した「川岳保育園」では、職員や保護者も被災し、卒園式や入学式で着るためのスーツも流されてしまったというお話を伺い、スーツをお送りすることに決めました。日本製の工場直結ファッションブランド「ファクトリエ」に協力いただき、オーダースーツをお渡しし、無事、卒園式は開催されました。



Emergency 災害支援

現地に行けなくてもできる支援を クリエイティブの力を活かした後方支援

令和2年7月豪雨の発災数日後に、一般財団法人くまもと未来創造基金と共同で立ち上げたBRIDGE KUMAMOTO基金では、全国のみなさまから、総額2,000万円以上の寄付金をお預かりしました。寄付金は、助成金という形で現地で活動する災害支援団体へ分配しました。

また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、県外からのボランティア活動は制限されるなか、私たちにできることはないのか。クリエイターにボランティア募集を行い、全国各地の100名超の方々とプロジェクトチームを立ち上げました。プロカメラマンによる現地での活動記録や、収益のすべてが寄付になるチャリティキーホルダーの製作、俳優、ナレーターによる被災地を応援するメッセージを代読してもらった「声の寄付」、アドビと共同で行った「災害クリエイター派遣」プロジェクトなど、クリエイティブの力で災害支援を行う仕組みのデザインを行いました。



寄付・助成総額

¥27,543,870

事業収益の10~20%を寄付した金額と、BRIDGE KUMAMOTO基金（一般財団法人くまもと未来創造基金と共同）により熊本豪雨の復興支援活動団体に助成した金額の総額です。



In-house 自主事業

アップサイクルを軸に プロダクト製造・販売、イベント企画を展開

本来捨てられるはずのものにデザインやアイデアの力によって新たな付加価値をもたせる手法「アップサイクル」プロダクトの企画・販売を行っています。収益の一部は被災地域や災害支援を行う団体をはじめとして、社会課題に対して寄付として還元。

また、縫製や梱包など生産を、就労継続支援事業所や被災地域の工場に依頼するなど、SDGsの目標にも挙げられるつくる責任、つかう責任にこだわったアイテムの開発を行っています。

ごみをみる万華鏡「REF[®]」

ゴミを見る万華鏡「REF(レフ)」。子どもも大人も、身近なごみに目を向けてほしい。そんな想いで製作したプロダクトです。乳白半透明の本体筒は、再生プラスチックを使用しており、お菓子の外袋や、ペットボトルのラベルなど、身近なごみを入れて遊ぶことができます。ゴミを最小限に抑えるため、パッケージも1枚の再生紙のみで収まるようデザインされています。本体の製作は、お子さまでも10分程度でできるため、商業施設でのイベントや、ピーチクリーンでのワークショップ、学校での授業にも用いられています。



テレビ朝日「気づきの扉」で放映



成人の日 無料撮影会

感染症拡大の影響で中止を余儀なくされた2021年の成人式。県内のネットワークを活かし、プロカメラマンによる無料撮影会「#晴れフォト」を実施しました。商業施設の一部をお借りして、感染症対策を行いながらの開催でしたが、100名超の方の撮影を行いました。



企業研修 ワークショップ

商業施設でお子様と一緒にアップサイクルプロダクトを作ったり、企業研修として被災地域の現状を伝えたり。防災や環境、福祉、さまざまな社会問題を軸に活動する私たちだから、ニーズに合わせた「学びの場」のデザインが可能です。

SDGs

これまでの取組が公的機関に評価され、
環境省や内閣府との連携も強化しています。



地方創生SDGs
官民連携
プラットフォーム



Lohas
Design
Award/
2018

内閣府地方創生SDGs官民連携プラットフォーム登録事業者
第8回環境省グッドライフアワード「環境&デザイン」賞受賞
熊本県SDGs登録事業者(第1期)
第13回ロハスデザイン大賞2018ファイナリスト



休眠預金を活用した事業の実行団体に選ばれました。

ご寄付頂いた企業さま



無添加調理だから
石井食品株式会社



HAGIHARA
萩原工業株式会社

KUWAIWA
KUWAIWA DESIGN SCHOOL



支援した団体(一部)

2016.12.25	ガレキと一輪の花
2017.3.26	城南塚原仮設団地
2017.6.10	もやいハウス
2017.7.1	ガレキと一輪の花
2017.7.14	支援のわ
2017.3.26	チーム熊本
2017.8.4	城南塚原仮設団地
2017.8.25	阿蘇神社ボランティア中島昌彦
2017.9.10	ガレキと一輪の花
2017.9.12	オレンジパフェ
2017.11.24	レスキューアシスト
2017.11.27	友救の会
2017.11.27	熊本まちのたね
2017.12.22	ロハス南阿蘇
2018.1.10	南阿蘇仮設団地
2018.2.20	あの日からはじまる写真展
2018.2.21	NGO inon & フレンドシップ
2018.4.29	余生馬牧場オープンセサミ
2018.5.30	ジョートフル熊本
2018.8.17	め組ジャパン
2018.8.17	ユナイテッドアース
2018.8.17	レスキューアシスト
2018.9.20	北海道地震 Yahoo! 募金
2018.11.13	クリスマスマーケット熊本
2019.3.7	くまもと未来創造基金
2019.3.15	(一社)子供キッチンブルービー
2019.3.22	ロハス南阿蘇
2019.4.12	くまもと復興城主
2019.4.19	南阿蘇鉄道
2019.6.13	みんなの力
2019.9.24	チーム絆
2019.9.25	ハッピーパーク
2019.9.25	下町グリーンサポート審判団
2020.3.26	阿蘇神社
2021.7.4	ランドアース

沿革

2016年	BRIDGE KUMAMOTO設立 キックオフイベント開催 ブルーシードバッグ販売開始
2017年	「えんとつ町のペブル光る絵本展」開催 あやとりチャレンジ in 無印良品 講演イベント「僕らの未来になに創る?」開催 ゲスト:田村淳、家入一真、大西熊本市長
2018年	ブルーシードバッグ 販売1,000個突破 グッドデザイン賞 BEST100、特別賞受賞 「1000人のあやとり写真展」開催 「ap bank fes」「AIR JAM」「RENEW」出演
2019年	イタリア「A」Design Award」受賞 ブルーシードサコッシュ販売開始
2020年	ごみを見る万華鏡REF KANGAROO販売開始 BRIDGE KUMAMOTO基金設立 寄付総額2,000万円超 熊本城瓦御守販売開始 環境省グッドライフアワード受賞



団体概要

団体名	一般社団法人BRIDGE KUMAMOTO
所在地	熊本県熊本市中央区新町2-2-23
代表理事	佐藤かつあき
設立	2016年5月10日
法人格取得	2017年2月17日
事業内容	デザイン・広告・映像の制作 ウェブサイトの制作・運営 イベントの企画・運営 商品の開発・販売に関する事業 など

